

## その3 タイ ラジャバト大学の皆さんを歓迎 10.14~29(14泊)

本会が毎年行っている「タイ環境学習キャンプ」。現地以案内してくれるタイ ラジャバト・プラナコン大学の皆さん。今回は大学院共同研修のために来日され、東京、小金井、小菅村を中心に研修されました。本会は、もちろん普段の逆で、案内とコーディネートをしました。

前半は東京及び小金井。江戸東京博物館、小金井公園建物園を見学、環境教育講義、学芸大学院生との合同セミナーなどを行いました。



学芸大学にて歓迎会を開催！



タイカレー作りと村民をご招待してお食事会

その後、小菅村に5泊しながら小菅村の生活と文化を体験、小菅の人たちとの交流を行いました。



大菩薩御光太鼓、太鼓道場の練習の見学



行政の視察① 長作地区の堆肥化工場



小菅村役場の表敬訪問(中央は小菅村長降矢英昭氏)



行政の視察② 下水処理工場

ミュージゼス研究会、小菅村役場、小菅の湯、NPO 多摩源流こすげ、太鼓道場をはじめ多くの皆さまにご協力をいただきました。ありがとうございます～！！



小菅村の自然: 松姫峠より山中



小菅村の産業: 木下養魚場で聞き取り

そして、小菅村民との座談会を行いました。また植物と人々の博物館(中央公民館)にもタイの展示をしました。

小菅村の皆さんの協力もあり、忙しすぎてしまったかな?というぐらい充実したスケジュールで行いました。

その後、東京へ戻り、八王子市上巻分方小学校の訪問、第31回環境教育セミナーの開催を行い、研修の成果をまとめた後に、宴会をして帰国。

当時はタイの大洪水で皆が心配していましたが、タイの方は心の不安を見せずに笑顔で付き合いしてくれました。

2011年(平成23年)10月23日 日曜日

### タイの大学院生7人、小菅に滞在

# 独自の山村文化学



ヤマメなどの養殖業者を見学するタイの大学院生  
＝小菅村

## 「環境考えるきっかけに」

タイのプラチコンラジャバト大の大学院生7人が環境に関わる研究の一環で小菅村を訪れ、23日まで住民と交流しながら滞在している。日本の山村地域の暮らしを知ることが主目的。特産物の生産や自然環境、公共施設などを観察しながら日本の技術や文化に触れている。タイは現在洪水被害に見舞われている。参加者の1人は自然環境について広く考えるきっかけにしたい、と考えている。

同大の学生が村を訪れるのは初めて。同大と交流がある東京学芸大や、もともと同大の学生サークルとして設立し、小菅村とも縁が深いNPOの法人「自然文化誌研究会」が仲介役となり実現した。村を訪れているのは社会人として勤務する傍ら、週末を利用して通学している大学院生と教員計約10人。同法人の事務局長で村内在住の黒沢友彦さんがコーディネーターを務めながら、体験プログラム

## 住民主導で地域づくり

### 人材養成講座スタート

新しい公共を担う人材を育てる地域再生フシリテェ活躍する山浦陽さんが講師を務めた。県内のNPO法人関係者や市町村職員など約40人が参加した。山浦さんは、宮城県の高橋で取り組んだ地域おこしの事例を取り上げ、「地域にあるものを活かすことが、地域再生に向けたメニューづくりにつながる」と話した。続いて、参加者がワークシ

を中心に活動している。一行は19日から村内に滞在。下水処理施設や堆肥工場を見学したほか、村の特産品である川魚の養殖業者も訪れた。住民との交流ではタイカシを振る舞ったほか、座談会を開いて日本の文化や日常生活を学んだ。タイで水道局に勤務しているアナン・ベツヌーさん(48)は「小菅村は小さなコミュニティだが、水処理や養殖技術で体系的な仕組みが確立されている点に参考になると感じた。また指導教員のラワン・カアン(57)は「タイは洪水、日本は津波の自然災害に見舞われた。今回の訪問を自然環境について広く話し合おう」と話していた。